

令和7年度 第3回 学校運営協議会 議事録

時間：令和8年3月6日(金) 13:30～14:45

場所：神奈川県立相模原城山高校 会議室

【出席者】(以下敬称略)

学校運営協議会委員

- ・大石 進 横浜リゾート&スポーツ専門学校長
- ・石坂 智 企業庁相模川水系ダム管理事務所所長
- ・岩村 卓也 神奈川県立相模原城山高等学校 PTA 会長
- ・鈴木 満博 相模原市立広陵小学校校長
- ・高野 朝枝 相模原市立城山公民館館長
- ・樋口 一孝 神奈川県立相模原城山高等学校校長

本校職員

- ・瀧川 美樹 神奈川県立相模原城山高等学校 副校長
- ・小野 貴史 神奈川県立相模原城山高等学校 教頭
- ・近藤 久美子 同 事務長
- ・後藤 南津恵 同 総括教諭(教務グループ・広報グループ グループリーダー)
- ・瀬古 千鶴 同 総括教諭(進路グループ グループリーダー)
- ・近藤 尚 同 総括教諭(生活グループ グループリーダー)
- ・茂木 拓郎 同 総括教諭(生徒会グループ グループリーダー)
- ・轡田 寛 同 総括教諭(総務グループ グループリーダー)
- ・尾身 博之 同 教諭(総務グループ 記録担当)
- ・舟久保さくら 同 教諭(総務グループ 記録担当)

【欠席者】

- ・安西 勝正 城山自治会会長
- ・伊藤 康宏 学校法人岩崎学園マーケティング・教育事業創造本部本部長
- ・小玉 敏也 麻布大学教授
- ・山田 裕康 相模原市立中沢中学校校長

【議 事】

1. 開会のことば(瀧川)

2. 会長あいさつ(大石委員)

- ・気候の変動、混乱する世界情勢などなど予測不能な世界の中でどのように生きていくかを、問われる時代である。  
本会議も、次年度へと続いていく会議としてほしい。

### 3. 副会長(校長) あいさつ(樋口)

- ・校内の体育館系の修繕工事も今年度中に終了する。
- ・4月からは次のステップで学校をより良くしていきたい。
- ・本会でも忌憚のないご意見を賜りたい。

〈これより議長を大石会長として進行する〉

### 4. 今年度の取組について

#### ○令和7年度 教務グループ業務報告(後藤)

- ・チャットを活用して業務の円滑化ができた。
- ・カリキュラムについて、検討を要する部分が出てきたため、是正に向けて検討している。
- ・R8年度入学生のカリキュラムについて。卒業に要する単位を、現行の80単位から79単位にする。
- ・定期試験の採点が電子化され、記述式問題でもスムーズに採点できるシステムとなった。
- ・R8年度から、家庭連絡システム「すぐー」を導入し、家庭や生徒との連絡や配付物送信に活用する。これにより、現行の「マチコミ」は廃止する。

〈質問・大石〉「すぐー」の職員対象研修は行ったか。

〈回答・後藤〉簡素化した研修は行った。一度配信を試してみたが、正しく運用できた。今後、三者面談の時間設定など、さまざまな活用が期待できる。

#### ○令和7年度 進路グループ業務報告(瀬古)

- ・年間を通じてのキャリア指導をめざした。
- ・上級学校では年内入試が主流となってきた。R8年度からは、1年生からキャリアガイダンスを導入していきたい。
- ・進学・就職で本意な結果となった生徒は、受験校・受験会社についての研究が足りない傾向にある。

#### ○令和7年度 生活グループ 業務報告(近藤)

- ・交通安全指導について。津久井警察、まちづくりセンターと協力して、通学路にて、年間を通じて登校安全指導をおこなった。交通事故が減った感がある。
- ・1年生全員を対象に、闇バイトについての防犯教室を行った。スマートフォンを活用してのゲーム形式のもので、生徒も積極的に取り組み、注意を喚起することができた。

〈質問・大石〉自転車用ヘルメットの着用状況はどのようか。

〈回答・近藤〉まだまだ少ないが、少しずつだが増えてきた。

#### ○令和7年度 広報グループ 業務報告(後藤)

- ・R8年度入学者選抜では、本校は2次募集を行うこととなった。来週3月10日に学力検査を実施する。
- ・本校の魅力を、さらに発信していきたい。
- ・10月のオープンスクールは近隣の中学校の学校行事と重なり、また、体育館が旧相模原総合高校を利用していたこともあり、参加者は少なめだった。12月の学校見学会は盛況だった。
- ・1月には電子黒板を各教室に導入した。

・横浜デジタルアート専門学校との協力のもと、本校のイメージキャラクターが完成した。R8 年度も同校の協力を得て、本校の魅力を発信する事業を考えたい。

〈質問・鈴木〉入学希望者の定員割れ状況は加速しているのか。

〈回答・小野〉私学の授業料無償化の影響のためであろうか、全体的に増えている。

#### ○令和 7 年度 生徒会グループ 業務報告(茂木)

・今年度初めて 11 月に、地域のイベントでモルック大会の運営に生徒が参加し、好評だった。

(注)会議資料 5 ページに「ポッチャ」とあるのは誤り。「モルック」が正しい。

・緑翔スポーツデイを 6 月に、緑翔祭の期日は若干遅らせた。日程について来年度も検討していきたい。

・工事中だった、校内の体育施設は今年度中に完成する。

・部活動の活性化を期して取り組んでいきたい。

〈意見・高野委員〉「モルック」の開催については R6 年度は法政大学生が、R7 年度は法政大学生に加えて相模原城山高校生が参加してくれた。進んでコミュニケーションをとり、明るい雰囲気での活況があった。

〈意見・大石委員〉入部率が 47%というのは、思ったより好調と思うがいかがか。

〈回答・茂木〉実感としては、このままでは先細りになる。対策が必要である。

〈意見・大石委員〉おひさまクラブに男子生徒がいるとよいのではないか。

〈回答・後藤〉男子が入部すれば、さまざまな活動ができると思う。是非入部してほしい。

#### ○令和 7 年度 総務グループ 事業報告(轡田)

・PTA と生徒との共同作業(花壇作り・ペンキ塗り)などは有意義だった。

・卒業式は完成した新しい体育館ででき、心のこもった良い式となった。

・防災訓練では不十分な点(校内工事中のため、動線を設定するのが難しかった)もあったが、R8 年度はより有意義なものを実施していきたい。

#### ※全般で意見質問等はあるか(大石委員)

〈意見・岩村委員〉PTA 活動に参加する生徒は、どうしても「良い子」ばかりである。よりさまざまな生徒と  
もっと触れ合うことによって、PTA 活動に新しい動きが生まれ、生徒・保護者双方にとって良い効果が生まれるのではないか。

〈意見・轡田〉遅刻指導の一環として、PTA 活動に参加する機会なども考えられる。

〈意見・鈴木委員〉義務教育の中で児童生徒数が減ってきている。保護者、児童生徒ともに、多様化している。時代の方向性が見えない中、これから何を目指すか、現場の対応は難しい。  
(たとえば問題行動に関する指導等)

〈要望・石坂委員〉ダム施設の現場に今年度は小田原城北工業高校の生徒がインターンシップに来た。  
職場の大きさ、職種の多さに驚いていた。相模原城山高校は近隣校なので、ぜひインターンシップに来て体験してほしい。

## 5. 学校評価部会

資料 10～11 ページを参照にして、今年度の校内評価について、各グループ代表から報告があり、意見交換された。なお、司会(大石委員)より、資料の記載方法について、「校内評価」の欄に誤りが数か所ある点の指摘を受けた。各グループで再度点検し、修正する予定である。

1) 視点 = 学習指導(後藤) 教師の授業力向上を目指し、DX ハイスクールの研修を行った。

2) 視点 = 生徒支援(茂木) 部活動の加入生徒の増加に向けて検討していく。

〃 (近藤) サポートドッグを行ったが、回答に消極的な生徒がいる。

〈質問・高野委員〉サポートドッグとは何か。

〈回答・近藤〉「かながわ子どもサポートドッグ」という。生徒のスマートフォンを利用し、QR コードを読み込んで、多くの質問に回答する。人間関係などのことで生徒の不安や悩みを把握する試みである。

2) 視点 = 生徒指導(近藤) 登下校の交通安全指導が功を奏した。しかしまだ、自転車についてはマナーが悪いという苦情もある。

2) 視点 = 進路指導(瀬古) 上級学校への合格者が大幅に増えたが、本当に進学したい学校を選択していたのかを、追っていきたい。

4) 視点 = 地域等との協働(後藤) オープンスクールが本校を PR する一番の場であるが、今年度は中学校の学校行事と重なったり、体育館の活用状況は旧相模原総合高校体育館で見てもらったりなどの状況が重なってしまった。R8 年度はさらに積極的に本校の様子を発信していく。

5) 視点 = 学校管理(近藤) 職員室がオフィス改善計画により整頓され、快適な職場となった。これにより教員間のコミュニケーションがとりやすくなり、かつグループ間の連携もとりやすくなった。

5) 視点 = 学校運営(瀧川) 月の勤務時間が 80 時間を超える教員は年間を通していなかった。また、ストレスチェックの結果、教員のストレス度は改善されている。

## 6. 質疑応答・提言

〈意見・鈴木委員〉予測不能なこれからの時代に向けて生成 AI をどのように考えればよいだろうか。大人の世界においては、教員の中には生成 AI で学習指導案を作る者も出てきている。児童生徒の世界では、一人一台端末での生成 AI 利用がフルオープンになっていくのだろうか、問題を孕んでいると思う。相模原城山高校での一人一台端末の利用状況はどうなっているか。

〈回答・後藤〉各年次 10 人弱の生徒は購入できていないので、学校から貸し出している。実際の授業では、生徒のスマートフォンでロイノートを利用して学習することが多い。

〈意見・樋口〉生成 AI は良い悪いではなく、どう活用するかを考えるのが必要な時期になってきている。その試行錯誤の中で出て来た結果を、いかに活用させるかが重要。より高度な教育に変わっていくであろう。

〈意見・岩村委員〉卒業式の PTA 会長挨拶で、考えて自分の言葉で述べた。また、年数回の学校評議員会に出席して、よい経験となった。

## 7. 閉会のことば(瀧川)

(以上)